

メイド尽くし
董

ク
ア
ト
□

1…おはようございます、旦那様（屋敷内自室／朝）

（ノックの音）

（位置右・遠く／有声音／ドア越し）

旦那様、メイド長の董（すみれ）でございます。
入ってもよろしいでしょうか？

はい、失礼いたします。

（ドアの開閉音）

（位置右・遠く／有声音）

旦那様、おはようございます。
朝です。

起きて下さいませ。

（董の足音）

（カーテンを開ける音）

（位置左前・遠く／有声音）

ほら、ご覧下さい。

こんなにも晴れて、とても気持ちのよい朝でございます。
せつかくの休日。

まだ眠っていたいお気持ちは重々承知しておりますが、

休日だからと言って、自堕落なお過ごし方は見過ごせません。

いいえ、いけません。

そんな甘えた猫の様な声を出されても、

私（わたくし…以下共通）はなびきませんよ。

それに旦那様。

本日はスペシャルリラクゼーションデーでございます。
左様です。

私含め、総勢八名のメイドによる、癒し尽くしの日。

日頃からお疲れの旦那様を癒して差し上げたいと、

メイドたちは意気込んでおります。

ですので旦那様。

早速ではございますが、施術着に着替えて頂きます。

さあ、こちらへ。

(聴き手の足音)

(着替える衣擦れ音)

(位置正面 中間／有声音／やや小声)

ここへ腕を通して下さい。

ええ…、そうです…。

ではこちらも…。

はい、準備は整いました。

それでは早速、私から。

先ずはお耳を温かい綿のタオルで、ササッと拭いて参ります。

そのあとは、爪や指先などの、ハンドケアをいたしましょう。

さあ、そちらの椅子におかけになってお待ち下さい。

(椅子に座る音)

(踵の足音)

(位置正面 中間／有声音／小声)

では旦那様、お耳を拭いて参ります。

蒸しタオルを少し冷まして…。

(タオルを冷ます音)

これくらいでしょうか…。

では失礼いたします。

(耳を拭く音)

いかがでしょうか？

お熱くはございませんか？

はい、では続けて参ります。

温かいタオルでお耳を拭いて…。

お耳が温まると血行もよくなる…。

そうすると、寝起きでボーっとしていた思考も、パツと晴れてきませんか？

ふふっ♪

それは何よりでございます♪

ではじつくり、やさしく、拭いて参ります♪

(しばらく耳拭きの音)

(位置正面 中間／有声音／かなり小声)

そろそろでしょうか。

あら、まだ足りませんか？

心地いいかもしれませんが、やり過ぎもよくありません。

ええ。

やり過ぎはお耳の皮膚を、傷付けてしまう可能性もございます。

ですから、このくらいにいたしましょう。

(ハンドケアセットを準備する音)

続けて、ハンドケアでございます。

爪の先を整えて参りますので、お手をこちらへ…。

(位置左前・中間／有声音／かなり小声でゆっくり)

それではこちらから…。

(爪を磨く音)

伸びてきた爪は切る、というのが普通ですが、

実は切ると、爪が割れやすくなる原因になるんです。

ですからこうして、切らずに丁寧に磨いて参ります。

勿論、切る方が早く済むでしょう。

ですが旦那様には、綺麗な指先を維持していただきたいですから…。
ええ。

そのためのスペシャルリラクゼーションデー、でございますっ♪
先ほども申しましたが、メイドたちはこの日のために腕を磨いております。
最高の時間を旦那様に過ごしていただきたい。

旦那様あつての我々メイドですから、そう思うのは当然でございます。
ええ。

メイドたちはその話題で、いつも持ち切りなのです。
ですので旦那様。

期待、していて下さいませ♪

ふふっ♪

いいお顔。

旦那様もこの日を、楽しみにされていたのですね♪

では私も、ご満足いただける様、努めます♪

(しばらく爪を磨く音)

はい、ではそろそろ反対の爪の先を、整えて参りましょう。

(位置右前・中間／有声音／かなり小声でゆっくり)

こちらも、ゆっくり優しく、爪とお肌を傷めない様に…。

(爪を磨く音)

このあとですが、お耳のオイルマッサージをして参ります。

紫織さんがまた新しいワザを身に付けたと仰っていました。

はい、楽しみでございますね♪

紫織さん、普段から口数は少ないですが、流石はベテランメイド。

日々のお給仕をこなしつつ、この日のための探求も欠かさない。

とても真面目な子…。

あ、そうそう。

すっかり見てしまったんですが、マッサージの練習をしながら、

「旦那様、喜ぶかな」ですって♪

ふふっ♪

ええ、可愛らしいですよね♪

私にはない、いい一面を垣間見る事が出来ました♪

え？

私にもある？

(照れ隠しの演技)

ええと…、可愛らしい所が…、でしょうか？

もう、旦那様ったら。

ご冗談はおやめ下さい。

へ？

そう…、でしょうか…。

(弦く様に) 私が可愛い…。

はあ…。

旦那様がそう仰るのだしたら、嬉しいです。

ふふっ♪

日頃から感謝しておりますが、本日は特別に、

ハンドケア、いつもより多めにいたしましたしようね♪

(二二二まで)

(しばらく爪を磨く音)

(少し照れくさそうな鼻歌)

ふんふふん♪

ふんっふんっ♪

ふっふふん♪

ふんっふんっ♪

(小さく笑う) ふふっ。

(ここまで)

(位置正面 中間／有声音／小声)

はい、では爪のお手入れは以上でございます。

お次は保湿ケア。

(ポーチからハンドクリームを取り出す音)

こちらの保湿クリームを塗りこんで参ります。

本日使用するクリームは、白檀(びゃくだん)の香りでございます。

英語圏では、サンダルウッドと呼ばれる香り…。

ほんのり甘く、その香木(こうぼく)は貴重で高価。

そんな香木から抽出したオイルを含んだ、特別なクリームでございます。

ええ。

旦那様に気に入って頂けるのではと、お取り寄せいたしました。

(手にクリームを馴染ませる音)

香り、いかがですか？

そう、それはよかったです♪

ふふっ♪

ではこれを、旦那様の手に…。

(位置左前・中間／有声音／かなり小声でゆっくり)

こちらから塗りこんで参ります。

失礼いたします。

先ずは手先から…。

手先、というのは、意外と人の目に触れるものでございます。

ですので、しっかりケアをして、清潔感を保つのがポイントです。

はい、お任せ下さい♪

指先、特に爪の周辺は入念に…。

ぐっぐ…、ぐっぐ…、ぐっぐ…、ぐっぐ…。
力を入れ過ぎず…、クリームを擦り込む様に…。
ぐっぐ…、ぐっぐ…、ぐっぐ…、ぐっぐ…。

段々と手先がポカポカしてきていませんか？

そうですね♪

血行がよくなり、じんわり手先が温まって参りました♪

では続いて指の間も忘れずに…。

指の間は、皮膚が薄くて荒れやすいんです。

ですので、こちらもしっかり保湿してあげましょう♪

旦那様、少し指を開いて下さいますか？

そうです。

パツと広げる感じで。

はい、ありがとうございます。

では旦那様の指の間に、私の指が挟まる様に…。

そうしましたら今度は少し指を閉じて頂いて…。

こうする事で、効率よく指の間にクリームを塗る事が出来るんです♪

え？

恋人つなぎ？

あつ…。

そのつ…、ちがつ…、ええと…。

こつ、これは…、せじゅちゅ…。

あ…。

(咳払い) う、うんっ。

施術…、ですのてっ。

(澄ました感じで) 噛んでおりません。

(強調して) 噛んでおりません。

あ、そう言う事でしたら、施術、ここで終わりにいたします？
じょう…だん？

ああ…あゝ、ええと…、それは存じておりましたが…。

(強調して) いいえ、存じておりました。

んん…。

旦那様ったら、いじわるなんですからっ。

(語気強めで) では、続きをして参りますっ。

(呟く様に) まったくもう…。

(しばらく指の間にクリームを塗り込む音)

ではそろそろ、手の平へ移りましょう。

旦那様の手の平と手の甲を、挟む様に包んで…。

こちらもしっかり塗り込んで…。

手の甲もまた、皮膚が薄い部分ですし、手の外側に当たりますので、

なにかと傷付きやすい部位ですね…。

人間というのは、歩く時などに手を前後へ動かしますから、特に…。

ええ、気付かない内にぶつけてしまい、怪我をしている…、なんて事も。

旦那様の手は…。

ふふっ♪

とてもお綺麗ですね♪

ですが手の甲もまた、人の目に触れやすいですから、ケアを欠かさずに…。

(しばらく手の平、手の甲にクリームを塗りこむ音)

はい、しっとり、つやつやになりました♪

それではお次は反対の手を保湿ケアをして参ります。

(位置右前・中間／有声音／かなり小声でゆっくり)

こちらも、しっかり塗り込んで参りましょう♪

ハンドクリームを足して…。

(クリームを手に馴染ませる音)

指先から、失礼いたします。

ぐっぐ…、ぐっぐ…、ぐっぐ…、ぐっぐ…。

爪と皮膚の間は入念に…。

ぐっぐ…、ぐっぐ…、ぐっぐ…、ぐっぐ…。

あ、そうそう。

女性って、意外と男性の指先を見ているんです。

ええ。

それと、爪や指先を見て綺麗だと、好感度がグッと上がるんですって。
はい♪

旦那様は今、好感度がグングン上がっておいでなのです♪

ええ、旦那様の指先、とてもお綺麗ですよ♪

ふふっ♪

どうやらお気に召したご様子♪

だって、頬が緩んでいるんですもの♪

はあい、では続いて指の間へ移りましょう♪

こちらも…、ああ…。

施術…、そう、施術をして参ります。

え？

(ため息) はあ…。

もう…、ですから、恋人つなぎではありませんっ。

わざと仰っているの、気付いておりますよっ。

私をからかって、楽しいですか？

うん、って…。

んん…。

旦那様は楽しいかもしれませんが、私は…、その…、嬉し…、ではなくて、

照れてしまいますので、余りそう言う事は仰らないで下さいませ…。
ええ、そうです。

皆が皆、旦那様の冗談が通じる訳ではございませんので。
はい。

ご理解頂けたのでしたら幸いです。

(しばらく手の間にクリームを塗り込む音)

はい、では最後に手の平と甲を…。

(しばらく手の平と甲にクリームを塗りこむ音)

はあい♪

ツヤツヤのプルプルになりました♪

新しい保湿クリームを使いましたが、痒みなどはございませんか？

旦那様の肌に合う様、気を付けて注文はしたのですが、念のため…。

そうですか、よかったです…。

香りはいかがでしょう？

ふふっ♪

とてもいい香りでございますね♪

そんなに鼻をひくひくさせて…。

またこの保湿クリームでハンドケアいたしましょう♪

はい。

次はお耳のオイルマッサージでございます。

紫織さんが待機しておりますので、交代いたしましょう。

では旦那様。

このあともゆっくり、ご堪能なさって下さいませ♪

私はこれで失礼いたします。

メイド屋へし 紫織

ク
ア
ト
□

2…オイルマッサージ、する（屋敷内自室／午前）

（ノックの音）

（位置右・遠く／有声音／ドア越し）

旦那様、紫織。

入ります、ので。

はい、失礼します。

（ドアの開閉音）

（位置右・遠くから正面 中間へゆっくり移動しながら／有声音）

おや、この…香り…。

（位置正面・中間／有声音／やや小声）

ええ…。

成程…。

白檀（びゃくだん）の…。

董（すみれ）さん、また新しい保湿クリームを？

やはり…。

いい香り…。

（独り言の様に）香りの事については、董さんにはかなわない。

え？

ああ、はい。

お耳のマッサージ、始める。

旦那様はそのまま椅子にかけて、お待ちを。

今日は…、ええと…。

無香料のオイル、使う。

（オイルの瓶をチャプチャプと振る音）

せっかく白檀のいい香り、している、ので。

他の香りが混ざったり、打ち消してしまつては、いけない。

どう？

はい。

そうする。

（位置右前・中間／有声音／小声）

じゃあ早速、オイルを手にとって…。

（キャップを開けオイルを手取る音）

手に、馴染ませる…。

（オイルを手馴染ませる音）

これは、他のオイルよりも少々粘度、高め。

オイル、というより、クリーム。

つまり、擦れる感覚、気持ちいい。

じゃあ、やる。

（しばらくマッサージ音）

どう？

気持ち…、いい？

痛くは、ない？

ああ、ええと…。

あたしの手…、素振り（すぶり）タコ、たくさん…。

そう、剣道。

毎日竹刀、握ってるせい…。

その甲斐あって、五段まで昇段、出来きた。

でも手がこんな、ゴツゴツ、では…。

（合間にマッサージ音）

もし痛かったり、不快だったら、言って欲しい…。

え？

綺麗…？

(位置左前・中間／有声音／小声)

あたしの手が？

旦那様、相変わらず、冗談、下手。

こんなゴツゴツした手、綺麗なはず、ない…。

はあ…、努力の証…。

旦那様がそう言うなら、その…、嬉しい…。

ああでも、旦那様のお耳を傷付けてしまったらいけない、ので。

もし痛みとかあったら、我慢しないで、言つて。

はい…、約束。

(位置左・近く／有声音／小声)

あ、そうだ。

旦那様。

ちよつと試したい事、ある。

やっても、いい？

(位置左前・中間／有声音／小声)

新しい、ワザ？

え、なんでその事、知ってる？

はあ…、堇さんが…。

いつの間にか、見られてた…。

(位置正面・中間／有声音／小声)

うう…、恥ずかしい…。

ええと、その…。

やっぱりやめる…。

だって、変に期待されると、やりにくい、ので。

やって欲しい？

(唸る様に) ううん…。

旦那様ががそう言うなら、やる。

ええと、あたしの手の平、ゴツゴツ…。だから、考えた。

(位置右前・中間／有声音／小声)

手の平の母指球(ぼしきゆう)。

ココなら、タコ、ない。

ほら。

親指の付け根周辺、一番ふつくらしている所。

ココが母指球。

柔らかくて、ふにふに。

きつと気持ちいい、はず。

そう思っ、たくさん練習、した。

(しばらく母指球でのマッサージ音)

(位置正面・中間／有声音／小声)

どう？

そっか、よかった…。

母指球でのマッサージ、細かい動き、出来ない。

だから、どうやったら気持ちいいか、探った。

ここから、新しいワザ。

(耳を塞ぎつつの耳マッサージ音)

これ、菊乃(きくの)ちゃん、実験した。

そう、新人メイドの。

菊乃ちゃん、身悶えしてた、ので、旦那様にも、多分効いてる。

(位置左・近く／有声音／小声)

(嬉しそうに)

ふふっ、やはり♪

よかった♪

旦那様に、喜んでもらいたかった、ので♪

その、嬉しい…♪

え、「もっと」？

はい♪

もう少し、続ける♪

(ここまで)

(しばらく耳を塞ぎつつの耳マッサージ音)

(位置右・近く／有声音／小声)

はい、おしまい。

じゃあ、お耳、綺麗に拭く、ので。

旦那様、ジッとしてて。

(濡れタオルでオイルを拭き取る音)

(位置正面・中間／有声音／小声)

綺麗に、なった。

どう、だった？

「また、して欲しい」？

本当？

(嬉しそうに)

分かった♪

する♪

また、練習してくる、ので♪

(ここまで)

じゃあ旦那様。

次は、耳かき。

マッサージでほぐれたお耳の中、綺麗にする。

耳かきは、茅由梨（ちゆり）ちゃんが、する。
そう。

いつもツンツン、茅由梨ちゃん。

でも実は、旦那様の事、好き。

だって、新しい耳かき棒買って、意気込んだ。
今日のため。

旦那様のため。

茅由梨ちゃんも、旦那様の事、好き。

ああ、ええと…。

「も」っていうのは、あたし「も」って意味。

あたしの手、綺麗って言ってくれた、ので♪

あ、そうだ。

耳かきは、いつも通り、施術室で。

はい、そう。

部屋の移動、必要。

（位置右・密着／無声音／囁き）

じゃあ旦那様、あたしは下がる。

またたくさん、練習してくる、ので、次も、楽しみにしてて♪

（紫織が退室する音）

メイド尽くし 茅由梨

ク
ア
ト
□

3…耳かきの時間よ（施術室／午前）

（ノックの音）

（右・遠く／有声音／（ドア越し））

旦那様、茅由梨。

入るわよ？

はい。

（ドアの開閉音）

（右・遠く／有声音）

次は耳かきの時間よ。

（右・遠くから正面・中間へゆっくり移動しながら／有声音）

え〜と…、ところで…、耳かきはその…、膝枕でいいかしら？

（正面・中間／有声音／やや小声）

（弾む様に嬉しい感じで）膝枕、そんなにして欲しいのね♪

あ…、しまっ…。

はあ？

な、なによっ！

別に喜んでなんかないしっ！

旦那様がそう言うなら、やってあげてもいいってだけ。

そう、それだけ。

（落ち込んだように呟く）ああ…、またやっちゃった…。

え？

ああ、ううん、なんでもない…。

（咳払い）う、うんっ。

（茅由梨が施術台に座る音）

（正面・中間から左・近くへ移動しながら／有声音／やや小声）

で、膝枕、して欲しいなら、ほら、ココ。

(恥ずかしそうに) ウチの膝、いつも通り、頭乗せなさい。

(茅由梨の膝に寝転がる音)

(左・近く／有声音／小声)

ちよつとつ、あんまり動かないでよっ！

くすぐったいじゃないっ。

そう、それでいいわ。

あと、これから耳かきするんだから、ジツとしてもらわないと困るわ。

じゃないと旦那様のお耳を、傷付けちゃうかもしれないじゃない？

は？

優しい？

ウチが？

ばっかじゃないのっ？

あ、しまっ…。

旦那様に対して、失礼な事言っちゃった…。

えっと、その…、すみません…。

だってさ…、もし怪我なんかしたら、痛いだろうし…。

そんな事、旦那様に起こって欲しくないっていうか…。

「やっぱ優しい」？

ちよ、今のなしっ！

そう、なしっ！

ウチはなにも言ってない。

いい？

(弦く様に) なに言ってるんだろウチ…、本音漏れすぎ…。

(咳払い) う、うんっ…。

じゃあ、始めるわよ。

今日は、新しい耳かき棒を買ったから、コレを使っていくわ。

先端がいつもより小さいの。

だから耳の奥もよく見える、優れモノよ♪

あ、でも、あんまり奥はやらないから、安心して？

さつきも言ったけど、傷付けちゃったらいけないから。

んん…。

もう、旦那様、からかわないでっ！

「ごめん」って、やっぱりからかってるんじゃない…。

旦那様のいじわる…。

(恥ずかしそうに) うう…。

まあいいわ。

ほら、話してばかりじゃ始められないから、やっていくわよ。

(左・近く／有声音／かなり小声)

初めて使う耳かき棒だから…、慎重に…。

(浅い呼吸の演技／若干台詞混じり)

すゝ、ふゝ、すゝ、ふゝ、すゝ、ふゝ、ふゝ、すゝ、ふゝ。

すゝ、ふゝ、すゝ、ふゝ、んん…、うん…。

(ティッシュで耳かき棒を拭く音)

すゝ、ふゝ、すゝ、ふゝ、すゝ、ふゝ、すゝ、ふゝ、ふゝ。

すゝ、ふゝ、すゝ、ふゝ、えゝつと…、よし…。

(ティッシュで耳かき棒を拭く音)

(台詞の合間に耳かき音)

旦那様、どう？

痛かったら、直ぐに言ってよね？

そう、気持ちいいのならよかったわ♪

え？

「あり…、がとう」？

急になによ。

ウチはメイド。

旦那様に雇われてるの。

だから耳かきくらい普通の事よ？

「違う」？

なにが？

この耳かき棒？

どういう意味よ？

うん…。

(ティッシュで耳かき棒を拭く音)

うん…。

は？

ウチが意気込んだ？

紫織さん、それ、喋っちゃったのっ？

もー、余計な話さないでって、いつも言ってるのに…。

(ため息) はあ…。

まあいいわ…。

そうよ。

ウチはどうすれば旦那様が喜んでくれるだろうって、いつも考えてる。

ただお耳を綺麗にするだけじゃない。

もう一つ…、ううん、もっと上の癒しを目指してる。

へ？

「真面目」？

もうっ、またウチをからかってっ！

本当に旦那様っていいわる…。

んん…。

(ティツシュで耳かき棒を拭く音)

まあでも、ウチは旦那様の事、嫌いじゃないわ。
は？

好きとは言っていないわよっ！

嫌いじゃない、そう言ったのっ！

旦那様、ワザと言ってるでしょ？

ぐぬぬ…、やっぱり…。

あ、いいの？

そんなにウチをからかうなら、耳かき、ここでやめるけど？
そんなの困るでしょ？

ほらね？

だったら、あんまりウチをからかわない事。

いい？

ねえ…、その顔はどう見ても分かってない顔よ？

なんでそこまで頑なの？

ウチ…、だから？

え…と…、意味が分からないんだけど？

つまり、どういう事よ？

うん…。

(ティツシュで耳かき棒を拭く音)

うん…。

は？

「好き」？

ちよ、バツカじゃないのっ？
なに言ってる…。

あ…、しまっ…、また…。

あゝ、その顔っ！

そう、いつもからかう時にする顔だわっ！

だ・ん・な・さ・ま？

いじわるも度が過ぎると、ウチにも我慢の限界つてものがあるわ。

それが今、限界を超えたの。

へ？

「超えたらどうなるか」？

あゝ…、えゝつと…。

(ティッシュで耳かき棒を拭く音)

もう金輪際（こんりんざい）、旦那様に耳かきしてあげ…、ない…？

あ、嘘。

今のなしっ！

それはウチが困る…。

耳かき出来ないのは…、困る…。

えゝつと…、それ以外だと…、えゝつと…。

うう…。

特にないわ…。

うるさいわねっ！

そもそもよ？

旦那様がそんなにいじわるなのがいけないの、分かってる？

あゝあ、やっぱり無自覚…。

いくら主従の関係だからって、ウチやほかのメイドをからかって、楽しい？

「うん」って…。

(ため息) はあ…。

(呆れた様に) もういいわ…。

(ティッシュで耳かき棒を拭く音)

旦那様はそういう人って分かってるから…。
そうよ。

メイドたちは分かった上で、旦那様にお仕えしているの。
これくらい、最初の三か月で、あしらい方にも慣れるわ。

旦那様も、もう何度も耳かきされているから、分かるでしょう？
そう、そろそろアレ、していくわよ♪

ふふっ♪

嬉しそうな顔してるわね♪

お待たせ、ふわふわ梵天よ♪

(ティッシュで耳かき棒を拭く音)

(耳かき棒を持ち替える音／耳かき棒をコンコンと叩く音)

行くわよ♪

(楽しそうに)

ふわふわ、ふわ、ふわ、ふわ、ふわ♪

ふゝわ、ふゝわ、ふゝわ、ふゝわ、ふわふわ♪

(息のみの耳ふー) ふうゝゝ。

あはっ♪

とろけた顔しちゃって、どんだけこれが好きなのよ♪

ま、人が幸せそうな顔してんのを見るの、ウチは好き。

だからもつとしてあげる♪

ふわゝ、ふわゝ、ふわゝ、ふわゝ、ふわふわ♪

ふわふわ、ふわふわ、ふわふわ、ふわふわ♪

(息のみの耳ふー) ふっふゝ、ふっふゝ。

ふふっ♪

口、空いてるわよ♪

だらしないんだから♪

もう少しだけ、ふわふわ行くわよ♪

ふゝわ、ふゝわ、ふゝわ、ふゝわ、ふわわ♪

ふわっふわっ、ふわっふわっ、ふわっふわっ、ふわっふわっ♪

(息のみの耳ふー) ふゝゝつ。

(ここまで)

はい、こっちはおしまい。

旦那様、ゴロンって反対側向いて頂戴。

(右・近く／有声音／かなり小声)

はゝい、次はこっちな。

よおし、綺麗にしていくなよ。

って、あのさ、なんでやる前からそんな幸せそうなのよ。

あゝ、もしかして、ウチの太ももで満足してない？

(会話の合間に耳かき音)

うゝわ、凶星なんだ…。

そう正直に肯定されるとは思わなかった…。

そんなにウチの太ももが好きなの？

(驚いた様に) 即答っ？

そ、そうなんだ…、へえ…、好き…、なんだ…。

まあ、いいんじゃない？

そんなに好きって言うてくれてるのに？

仕えてる身としては？

旦那様の意向に背く訳にはいかないじゃない？

そうよ。

この事は許してあげる。

(ティッシュで耳かき棒を拭く音)

あ、だからって、ほかのメイドにまで同じ様に接するのはオススメしないわ。

そう、ウチだから許されてるって忘れないで。

(呆れた様に) なくに鼻の下伸ばしてるのよ。

(冷たい感じで)

旦那様が、膝枕がいいって言うからしてあげてるだけ。

それ以上の感情はないから、勘違いしないで頂戴？

そんな風に唇尖らせて、拗ねたフリしてもダメよ。

旦那様に仕えて、色々と思い知らされたの。

これくらいお見通しよ。

ほくら、いつまでそうやって唇尖らせてるつもり？

耳かきに集中するわよ。

(ティッシュで耳かき棒を拭く音)

(二つまで)

すく、ふく、すく、ふく、すく、ふく、すく、ふく。

すく、ふく、すく、ふく、すく、ふく、うん…、うん。

(ティッシュで耳かき棒を拭く音)

すく、ふく、すく、ふく、すく、ふく、すく、ふく。

すく、ふく、すく、ふく、よし、取れた…。

(ティッシュで耳かき棒を拭く音)

すく、ふく、すく、んん…、すく、ふく、すく、ふく。

すく、ふく、すく、ふく、もう少し…、よし…。

(ティッシュで耳かき棒を拭く音)

んく、お、発見…。

すく、ふく、すく、ふく、すく、ふく、すく、ふく。

すく、ふく、すく、ふく、これで…、最後…、よし。

(ティッシュで耳かき棒を拭く音)

よし、大きな汚れは取れたわ。

じゃあ最後に、ふわふわ梵天ね♪

（耳かき棒を持ち替える音／耳かき棒をコンコンと叩く音）
いくわよ♪

ふわふわ、ふわふわ、ふわわ、ふわわ、ふわふわ♪
ふわふわ、ふわふわ、ふわふわ、ふわふわ、ふわふわ♪

（息だけの耳ふ）ふ、ふ。

ふっ♪

（台詞の合間に梵天の音）

相変わらず、いい顔するんだから♪

これ、くすぐったいって言う人も居るけど、旦那様はそうじゃない様ね♪
耳かきの先じゃ取れない様な細かい汚れも、これで一網打尽よ♪
え？

ああ、確かに。

本当にそんな小さな汚れが取れているかは、よく分からない…。
お耳の穴って暗くて良く見えないものね。

（息だけの耳ふ）ふ、ふ。

まあでも、気持ちいい…、それだけでもやる価値はあるでしょう？
と言うか、気持ちいいからやって欲しいと思ってる。

違う？

あら、ビックリしたような顔をして。

どうやら正解みたいね♪

（息だけの耳ふ）ふっふっふ。

別に不思議じゃないわよ。

言っただけでしょう？

旦那様の事はお見通しだって。

そういう事よ♪

(息だけの耳ふー) ふー、ふー。

うん、綺麗になったわ♪

これで耳かきはおしまい。

どう？

痒い所とか、ないかしら？

そう、よかった。

あ、こら。

まゝた太もみにすりすりして…。

旦那様、このあとを担当する春(はる)と咲(さき)が待っているの。

いつまでもそうしていたら、続きが出来ないわよ？

ねえ、聞いている？

(ため息) はあ…。

(呆れた様に) もう、仕方ないわね…。

今日はここまで。

またいつでも膝枕、してあげるから。

ふふっ♪

嬉しそうな顔…。

は？

可愛い…？

そ、そう…？

えへへ…、って、しまっ。

(震え声で) バ、バツカじゃないのっ？

べ、別に嬉しくなんかないし？

喜んでなんかないし？

あ、まゝたその顔…。

からかってる時の顔…、ぐぬぬ…、もう…知らない…。

ほら、起き上がりなさい？

（身を起こす音）

（位置正面・中間／有声音／小声）

ウチはこれで下がるから。

次は春と咲が担当する、色んなASMRよ。

楽しみにしててよね♪

じゃ、旦那様、またね♪

（茅由梨が立ち去る音）

メイド尽くし 春・咲

ク
ア
ト
□

4…色んなASMRのお時間です（施術室／正午過ぎ）

（ノックの音）

◆春◆

（位置右・遠く／有声音／ドア越し）

旦那様、春と咲です。

入ってもよろしいでしょうか。

はい、失礼いたします。

（ドアの開閉音）

（春と咲の足音）

（位置左・中間／有声音／やや小声）

旦那様、昼食はお済みの様ですね。

では食器をお下げいたします。

咲、お願い。

◆咲◆

（位置右・中間／有声音／やや小声）

はい、春姉さん。

旦那様、食器をお下げいたしますので、前を失礼いたします。

（食器を片付けて下げる音）

◆春◆

（位置左・中間／有声音／やや小声）

昼食はお口に合いましたでしょうか。

左様でございますか。

ご満足いただけた様でなによりです。

本日このあとは、色んなASMRのお時間でございます。

春と…。

◆咲◆

(位置右・中間／有声音／やや小声)

咲が、旦那様にきつと喜んでいただける音を、集めて参りました。
早速始めますが、よろしいでしょうか？

はい、かしこまりました。

では、旦那様。

楽な姿勢で、全身の力を抜いて下さいませ。

◆春◆

(位置左・近く／有声音／小声)

先ず、呼吸を整え、リラックスするため、深呼吸をいたしましょう。

吸ってゝ、吐いてゝ、吸ってゝ、吐いてゝ。

吸ってゝ、吐いてゝ、吸ってゝ、吐いてゝ。

◆咲◆

(位置右・近く／有声音／小声)

吸ってゝ、吐いてゝ、吸ってゝ、吐いてゝ。

吸ってゝ、吐いてゝ、吸ってゝ、吐いてゝ。

はい、それでは、色んなASMRを始めて参りましょう。

◆春◆

(位置左・近く／有声音／小声)

一つ目は旦那様も大好きな、コルクタッピングです。

今日は厚めのコルクコースターをご用意いたしました。

コルクの表面を、爪で軽く叩く様にして…。

(コルクタッピングの音)

◆咲◆

(位置右・近く／有声音／かなり小声)

いつもよりも、重厚な音の様に感じられませんか？

そしてそれが心地いい…、いかがでしょう？

うん、お気に召された様でなによりです。

春姉さん。

春姉さんが選んだコルクコースターの音、旦那様は喜んでおられますよ。

◆春◆

(位置左・近く／有声音／かなり小声)

咲。

そういう事は恥ずかしいから言わなくてもいいのよ。

分かったかしら？

◆咲◆

(位置右・近く／有声音／かなり小声)

すみません、春姉さん。

以後、気を付けます。

◆春◆

(位置左・近く／有声音／かなり小声)

旦那様、今の咲の発言は、聞かなかった事にして下さいませ。

え？

あり…、がとう？

ええと、その…。

春は、当然の事をしたまでですので…。

ですが、旦那様にそう仰って頂けて、光栄でございます。

◆咲◆

(位置右・近く／有声音／かなり小声)

よかったですね、春姉さん。

旦那様に感謝されましたよ。

◆春◆

(位置左・近く／有声音／かなり小声)

だから咲。

分かっているから、そういう事は言わなくていいの。

◆咲◆

(位置右・近く／有声音／かなり小声)

すみません、つい。

でも春姉さん、実は嬉しいんでしょう？

顔、緩んでますよ。

◆春◆

(位置左・近く／有声音／かなり小声)

うう…。

咲、あとで部屋に來なさい。

話があるわ。

◆咲◆

(位置右・近く／有声音／かなり小声)

(落ち込んだ様に) はい、春姉さん…。

◆春◆

(位置左・近く／有声音／かなり小声)

おや？

旦那様。

いかなさいましたか？

はあ…、「仲がいい」…、でございますか…。

うん…、これは仲がいいと言えるのでしょうか…。

え？

「双子らしくていい」…、でございますか…。

◆咲◆

(位置右・近く／有声音／かなり小声)

今度は旦那様に褒められました。

よかったですね、春姉さん。

◆春◆

(位置左・近く／有声音／かなり小声)

咲…、いい加減にしなさい。

ワザとそうやって言っているでしょう。

◆咲◆

(位置右・近く／有声音／かなり小声)

さあ、なんの事でしょう。

分かりませんね。

◆春◆

(位置左・近く／有声音／かなり小声)

嘘が下手ね。

咲は嘘をつく時、いつも唇を舐めるの。

今もそうよ。

あとで覚えていなさい。

◆咲◆

(位置右・近く／有声音／かなり小声)

春姉さん、こわい。

旦那様、助けて下さい。

◆春◆

(位置左・近く／有声音／かなり小声)

なっ…、ずるいわよ。

というか、旦那様を巻き込まないで。

旦那様もなにか仰って下さい。

咲の悪ふざけは、少々失礼かと。

◆咲◆

(位置右・近く／有声音／かなり小声)

旦那様はお優しい方ですから、きつとお叱りになられませんよ。

それよりも今はコルクタッピングの時間。

余り喋っているのは、音に集中できないですよ。

◆春◆

(位置左・近く／有声音／かなり小声)

うう…、元はと言えば、咲が原因よ。

それなのに、ずるいわ。

すみません、旦那様。

せっかくのスペシャルリラクゼーションデーなのに、騒がしくて。

◆咲◆

(位置右・近く／有声音／かなり小声)

ほら、春姉さん。

旦那様は喜んでいらつしやいます。

喜ぶ、笑顔になる事もまた、リラックスされている証拠。

◆春◆

(位置左・近く／有声音／かなり小声)

うう…、確かにそうだけど…。

まあいいわ。

咲、これが終わったら覚悟していなさい。

◆咲◆

(位置右・近く／有声音／かなり小声)

一体なにをされてしまうのかしら。

こわい。

◆春◆

(位置左・近く／有声音／かなり小声)

もう、知らない…。

(呟く様に) はあ…、今は咲に構っている場合じゃないわ…。

さて、旦那様。

続いてはコルクコースターのスクラッチングでございます。

ゴリゴリという音が、きつと耳に心地いい事でしょう。

◆咲◆

(位置右・近く／有声音／かなり小声)

咲はこの音、大好きでございます。

今日はいつもより厚めのコルクコースターですので、初めて聞く音。

旦那様、いかがですか？

◆春◆

(位置左・近く／有声音／かなり小声)

それはよかったです。

では旦那様。

少し変わった試みをいたしましょう。

◆咲◆

(位置右・近く／有声音／かなり小声)

目を閉じて、リラックス…。

スクラッチ音が…、左右を行ったり来たりしますよ…。

いかがです？

あ、目を開けてはいけません。

ええ、そのままです。

これは咲と春姉さんが、新しく身に付けた奥の手でございます。
ですので、どうやっているかは、旦那様にもナイシヨ、です♪

◆春◆

(位置左・近く／有声音／かなり小声)

音が移動して、頭の中を通っている様に聞こえますか？

どういう仕組みか気になります？

ふふっ♪

ナイシヨ、です♪

◆咲◆

(位置右・近く／有声音／かなり小声)

どうやら、かなりお気に召されたご様子。

これを最初に提案したのは、咲でございます。

春姉さんと双子ならではの、なにかが出来ないと、試行錯誤いたしました。

◆春◆

(位置左・近く／有声音／かなり小声)

咲と呼吸を合わせ、音に強弱を付ける事で、この不思議な音が完成します。
これを習得するまで、何度も何度も咲と練習いたしました。

◆咲◆

(位置右・近く／有声音／かなり小声)

春姉さんったら、凄く熱心に練習していたんですよ。
昨晚も夜遅くまでずっと。

よかったですね、春姉さん。

旦那様はまたお喜びですよ。

◆春◆

(位置左・近く／有声音／かなり小声)

咲、そういう事は言わなくていいって、何度も言わせないで。

春は咲よりもその…、少しだけ不器用ですので、それで多く練習を…。

◆咲◆

(位置右・近く／有声音／かなり小声)

少しだけ…？

◆春◆

(位置左・近く／有声音／かなり小声)

聞こえているわよ、咲。

今日、このあとの反省会は長くなりそうね。

◆咲◆

(位置右・近く／有声音／かなり小声)

うつ…、もう既に反省しています…。

◆春◆

(位置左・近く／有声音／かなり小声)

まったくもう…。

恥ずかしいから、旦那様の前で余計な事を言わないで欲しいわ…。

あ、失礼いたしました、旦那様。

またお見苦しい所を…。

◆咲◆

(位置右・近く／有声音／かなり小声)

旦那様は気にしていらない様ですよ。

よかったですね、春姉さん。

◆春◆

(位置左・近く／有声音／かなり小声)

咲、ワザと言っているでしょう？

旦那様の前だからって、調子に乗っていない？

いい加減にしないと怒るわよ？

◆咲◆

(位置右・近く／有声音／かなり小声)

う…。

分かりました。

しばらく静かにしています。

◆春◆

(位置左・近く／有声音／かなり小声)

分かればいいのよ。

旦那様、騒がしくて申し訳ございません。

しばらくスクラッチ音に集中なさって下さい。

(しばらくスクラッチ音のみ)

◆春◆

(位置左・近く／有声音／かなり小声)

さて、旦那様。

そろそろ次の音へと参りましょう。

◆咲◆

(位置右・近く／有声音／かなり小声)

最後は、キネティックサウンドをザクザクして参ります。

本来はお部屋の中でも汚さず遊べる土、として売っているモノ。

握ると固まり、それでいて手に付着しない、子供向けのがん具でございます。

◆春◆

(位置左・近く／有声音／かなり小声)

では容器に入れたキネティックサウンドにフォークを刺して…。

◆咲◆

(位置右・近く／有声音／かなり小声)

かき氷を削っている様な、ザクザクという音。

耳かきをされている様な、チリチリという音。

複雑に混ざりあって聴こえ、ゾクゾクいたしませんか？

◆春◆

(位置左・近く／有声音／かなり小声)

どうやらとても心地いいと感じられている様子。

だって旦那様、背筋が反っているんですもの。
そんなにゾクゾクいたしますか？

◆咲◆

(位置右・近く／有声音／かなり小声)

これは新しい発見ですね、春姉さん。

普段とは違う、今まで使った事がない音…。

そういうモノを探していました。

どうやらこのキネティックサウンドは大当たりの様ですね。

◆春◆

(位置左・近く／有声音／かなり小声)

そうね、咲。

これは大当たりだわ。

それでは旦那様。

またしばらく音だけをお楽しみ下さい。

(しばらくキネティックサウンドの音)

◆咲◆

(位置右・近く／有声音／かなり小声)

はい、旦那様。

いろんなASMRは以上でございます。

あら？

物足りないといったお顔をされていますね。

◆春◆

(位置左・近く／有声音／かなり小声)

ですが、この後の陽縁（ひより）が控えております。

それに、この後は旦那様もお気に入り、お耳の炭酸マッサージでございます。

◆咲◆

(位置右・近く／有声音／かなり小声)

陽縁は抜けている所がございますが、この日のための準備は万全の様でした。
ええ。

「旦那様を癒すんだ」っと、意気込んでおりました。

◆春◆

(位置左・近く／有声音／かなり小声)

では旦那様。

これにて春と。

◆咲◆

(位置右・近く／有声音／かなり小声)

咲は失礼いたします。

ええ、次回も変わったASMR、ご用意して参ります。

なにを使うかは、ナイシヨ、でございます♪

◆春◆

(位置左・近く／有声音／かなり小声)

なにを使うかは、ナイシヨ、でございます♪

(春と咲が退室する音)

メイド尽くし 陽縁

ク
ア
ト
□

5…炭酸マッサージだよぉ（施術室／午後）

（ノックの音）

（位置右・遠く／有声音／ドア越しに呼びかける）

旦那ちゃん、陽縁だよぉ。

入るねえ。

はい。

（ドアの開閉音）

（位置右・遠く／有声音／やや小声）

やあーっと陽縁の番、きたー。

（位置右・遠くから正面・中間へ移動しながら／有声音／やや小声）

早く回ってこないかなーって、待ってたんだあ。

（位置正面・中間／有声音／小声）

えへへ。

旦那ちゃんも、陽縁の事、待ってたよね？

（イケボで）「待ってたよ」

だって。

にえへ照れるうー。

（肩をバンバン叩かれる音）

（位置正面・中間から左・近くへゆっくり移動しながら／有声音／小声）

で、早速んだけど、陽縁はー炭酸マッサージの係だよー。

（位置左・近く／有声音／小声）

シュワシュワパチパチの炭酸泡でーお耳をマッサージするんだあ。

旦那ちゃんも、炭酸マッサージ、楽しみだったよね？

（イケボで）「勿論」

だって。

にえへ嬉しいなー。

(肩をバンバン叩かれる音)

陽縁もね〜いっぱい準備してきたんだあ〜。

だって旦那ちゃんを、癒してあげたいんだも〜ん♪

(位置左・近くから正面・中間に移動しながら／有声音／小声)

って事で〜今日は〜これを使うよっ。

(正面・近く／有声音／小声)

ジャ〜ンっ！

(思い出せないという感じで) あ〜あれ、え〜っと…なんだったっけ？

(商品の説明欄を読みながら／呟く様に)

きめ…細やかな泡が…お肌に…密着…ふむふむ…。

無添加…アルコール…不使用…ほうほう…。

なるほどねえ〜。

(ここまで)

(正面・中間／有声音／小声)

ジャ〜ンっ！

今日はこの新しい炭酸泡のやつでマッサージするよ♪

これはね、きめ細やかな泡が…へ？

聞こえてた…？

そっか…聞こえてたんだ…。

陽縁は読んでもよく分かんなかったけど…いいやつだよ♪

多分？

きつと？

おそろく？

まあなんでもいいじゃない。

簡単に言っと、凄い新商品って事♪

(自慢気に) ふふんっ♪

え？

これを選んだ理由？

あゝ、えっとね、店員さんに聞いたの。

「炭酸泡が出るやつで、凄いやゝつありませんか」って。

そしたらね、親切なお姉さんが、これを勧めてくれたんだあゝ。

「お肌の弱い方でも使えますよ」って。

旦那ちゃんの肌は荒れやすいから、新商品つてなると、そこ重要でしょ？
そ。

だからそこまでちゃゝんと考えて、買ったんだあゝ

(自慢気に) えっへんっ。

さ、話しはこれくらいにして、マッサージ、やっていくよおゝ
まずは炭酸泡を手にとって…。

(炭酸泡が出る音)

はゝい、じゃあ片方ずつやっていくからねゝ。

(位置正面・中間から右・近くへ移動しながら／有声音／小声)
シュワシュワゝゝ。

(位置右・近く／有声音／小声)

(ゆっくり)

シュワゝゝシュワゝゝ、シュワゝゝシュワゝゝ。

シュワゝゝシュワゝゝ、シュワゝゝシュワゝゝ。

パチゝゝパチゝゝ、パチゝゝパチゝゝ。

パチゝゝパチゝゝ、パチゝゝパチゝゝ。

(ここまで)

どう？

お肌、ヒリヒリしたりしてない？

(満足げに) うんうん♪

それなら安心だね。

(位置右・近くから左・近くへ移動しながら／有声音／小声)
反対のお耳もしよう。

(炭酸泡が出る音)

(位置左・近く／有声音／小声)

こっちもシュワシュワ。

(ゆっくり)

シュワ〜シュワ〜、シュワ〜シュワ〜。

シュワ〜シュワ〜、シュワ〜シュワ〜。

パチ〜パチ〜、パチ〜パチ〜。

パチ〜パチ〜、パチ〜パチ〜。

(ここまで)

は〜い、気持ちいい。

どうどう、旦那ちゃん。

新商品の凄さ、感じる？

(相槌) うん…うん…。

(イケボで) 「いつもよりマイルド」

だって。

きつと前のより、泡が細かいから、だね。

成程、成程お。

(位置左・近くから右・近くへ移動しながら／有声音／小声)

じゃあ凄い新商品、もっと試して。

(炭酸泡が出る音)

(位置右・近く／有声音／小声)

もっかいこっちを、シュワシュワ。

(ゆっくり)

シュワ〜〜シュワ〜〜、シュワ〜〜シュワ〜〜。
シュワ〜〜シュワ〜〜、シュワ〜〜シュワ〜〜。
パチ〜〜パチ〜〜、パチ〜〜パチ〜〜。
パチ〜〜パチ〜〜、パチ〜〜パチ〜〜。

(ここまで)

(炭酸泡が出る音)

(位置左・近く／有声音／小声)

反対も忘れず、シュワシュワ〜〜。

(ゆっくり)

シュワ〜〜シュワ〜〜、シュワ〜〜シュワ〜〜。
シュワ〜〜シュワ〜〜、シュワ〜〜シュワ〜〜。
パチ〜〜パチ〜〜、パチ〜〜パチ〜〜。
パチ〜〜パチ〜〜、パチ〜〜パチ〜〜。

(ここまで)

旦那ちゃん、いい顔してる♪

うん、幸せそうな顔っ♪

ところで旦那ちゃん。

今片方ずつやってるけどさ、両耳同時にやったら、どうなっちゃうと思う？
ふふっ♪

目がキラッとしたっ♪

やって欲しいんでしょ？

(イケボで) 「頼む」

だってっ。

冷静に見えるけど、内心やって欲しくて仕方ないクセにいい。
分かるよお。

陽縁はぜくんぶ、お見通しのっ♪

(位置左・近くから正面・中間へゆっくり移動しながら／有声音／小声)
じゃあ両方のお耳、マッサージしてみようね♪

(炭酸泡が出る音)

これでもくと陽縁に、メロメロになっちゃうかも？

ん、それっ。

(しばらくマッサージ音のみ)

(位置右・近く／有声音／小声)

どうどう？

陽縁にメロメロになった？

陽縁はね、旦那ちゃんの事、好きだよ♪

いっぱい褒めてくれるし、優しいし、お皿割っても怒らないしっ♪

え？

あれから？

(位置右・近くから左・近くへゆっくり移動しながら／有声音／小声)

あ、え、と…五枚割っちゃった、みたいなの？

(位置左・近く／有声音／小声)

へ？

正直でいい？

にえへへ、照れますなあ、♪

でもね、聞いて？

お皿がね？

勝手にね？

手から滑り落ちるのっ。

つる、ん、つてっ！

怖くない？

怖いよね？

でしょ？

（位置左・近くから右・近くへゆっくり移動しながら／有声音／小声）
でね、その事をメイド長の董（すみれ）さんに、報告したの。

（位置右・近く／有声音／小声）

そしたら、なんて言われたと思う？

（おしとやかに）「割った七枚分、注文しといて頂戴」。

だって。

だから陽縁、早速注文しておいたんだ♪

（自慢気に）えっへんっ。

へ？

「さっきと枚数が違う」？

（慌てた様に）しまっ…。

（誤魔化す様に）

な、なにが？

え、待って。

ホラー？

怖い怖い怖い…。

（ここまで）

（落ち込んだ様子で）

（位置右・近くから正面・中間へ移動しながら／有声音／小声）

あゝ、えゝつと…。

（位置正面・中間／有声音／小声）

うん…嘘ついた…。

本当は、七枚割った…。

今度こそ本当…。

七枚だから、ラッキーセブン…なんちゃって…。

(……まで)

へ？

「怪我がなくてよかった」…？

旦那ちゃん…優し過ぎて惚れてまうやん…。

まあ惚れはしないんだけどさ。

当たり前でしょ？

陽縁は雇われてる身。

それくらい自覚してます。

え、てか旦那ちゃん、もしかして期待しちゃった？

わあゝマジいゝ？

あり得ない。

ぷくすくすつ。

へ？

お皿の代金…？

あつ…。

えゝつと…その…ぐめん…。

反省してる…。

お皿ももう二度と割らない。

多分？

きつと？

おそろく？

まあ見ててよ。

華麗なるお皿さばきをさつ。

シュツ、シュツ、シュツてね。

(自慢気に) ふふんつ。

あ、旦那ちゃんのその目。

信用してない目だ。

いいの？

信用されてない陽縁、仕事放棄しちゃうけど、いいの？

(イケボで) 「構わん」

だって、あはっ♪

…あれ？

マジで？

えーっと……マジ？

あははーもーやだなーもーねー♪

旦那ちゃんは、すぐ真に受けるんだからーもー。

(位置正面・中間から左・近くへ移動しながら／有声音／小声)

でーそのおー、お給料はどうなるのかなーって気になるなあー。

(位置左・近く／有声音／小声)

陽縁、今月の出費が結構あつてー、厳しいーみたいなの？

差し引かれちゃうとー、困るー的な？

優しい旦那ちゃんならー？

(位置左・近くから右・近くへ移動しながら／有声音／小声)

見逃してくれー…るっ。

(位置右・近く／有声音／小声)

(キョトンとした感じで) …へ？

マジ？

えーっと、いいの？

結構いいお値段のお皿だったよ…。

そっか…許してくれるんだ…。

旦那ちゃん優しい…しゅき♪

にえへへー、ホントの事、言っちゃったー♪

そうだよ。

陽縁はく旦那ちゃんの事くしゅきつ♪

(位置右・近くから正面・中間へ移動しながら／有声音／小声)

理想の男性ナンバーワン、なんだよ？

(急に真剣に／キャラが変わった様にシリアスに)

冗談とかじゃなくて、本気で…。

自分で言うのもアレだけど、陽縁は…ドジでしょ…。

そんな陽縁を雇ってくれて…ドジっても許してくれる…。

普通なら…とくにクビになっても…不思議じゃない…。

なのに旦那ちゃんは…ずっと優しいまま…。

だから陽縁…正直になる…。

今…その決心が付いたよ…。

理想の男性ナンバーワンの旦那ちゃん…。

実はね…。

(ここまで)

(元のアホっ子に戻る)

(位置左・近く／有声音／小声)

寝室の花瓶、割っちゃった♪

ごめんね…♪

いやあ、お掃除してたらさくお尻とごつつんこしちゃって…。

そんで、しまったくって思った時には、もうアウトだったんだよね…。

次の瞬間には、パリーンってね♪

派手に割れて、床も水浸しっ。

おかげで掃除が増えちゃってさ…♪

あれ…もしかして旦那ちゃん…おこ？

おこぴっぴなの？

やだなあゝそんな怖い顔しないでよゝ。

(位置左・近くから右・近くへ移動しながら／有声音／小声)
いつもみたいに許してくれるでしょゝ？

あ、駄目…。

流石に許されない…。

ですよねゝ…。

えゝつと、その…。

あの花瓶って高いの？

へえ…高いんだ…。

(位置右・近くから正面・中間へ移動しながら／有声音／小声)

んゝちなみに、おいくら万円なんざましょ…？

(値段を聞く)

(位置正面・中間／有声音／小声)

たっk…っ！

ほおゝほおほお、そう来ますか、ほおほお…。

(心底落ち込んだという感じで) トホホゝ。

あのゝ、分割でもいい？

何回払いになるか分からないけど、一度には無理…。

少しずつ返すから…何卒…。

へ？

冗談？

なあゝんだゝ、旦那ちゃんったら、演技うまゝ♪

(肩をバンバン叩かれる音)

まったくもゝ焦っちゃったゝ。

え？

それ以外？

(とぼけた感じで) え〜っと、なんの事だろう…？

(鳴らない口笛) スヒュ〜、スヒュ〜。

はいっ、ちよっと時間押してるから、今日はこんなもんでっ！
いいの、終わるの。

ほら、メイドたるもの、時間管理って大事じゃない？
そ。

決められた時間までに、決められた勤めをこなさないといっ。

でしょ？

うんうん。

って事で〜次はヘアカット。

杏子(あんず) ちゃんの番だね♪

陽縁は杏子ちゃんを呼んでくるから、旦那ちゃんは浴室へ移動してて？
でさ、髪を整えて、益々理想の男性になってよ♪

んじゃあ早速、陽縁は失礼してっ…。

(陽縁の足音)

(ドアの開閉音)

(廊下で花瓶が割れる音)

(位置右・遠く／有声音／(ドア越し)(

やっぱ…。

メイド尽くし
杏子

ク
ア
ト
□

6…ヘアカットすんよ／＼（広い浴室／夕方）

（ノックの音）

（位置右・遠く／有声音／ドア越し）

パパ、杏子（あんず）。

入るよ。

（ドアの開閉音）

（位置右・遠く／有声音）

いえ、いい、パパ、待った待った？

にひひ♪

やっぱり待ったよね♪

って事で、やっと杏子の番だよ♪

（杏子の足音）

（位置左・近く／有声音／小声）

杏子う、楽しみで楽しみで、待ちくたびれちゃった。

だから、早速ヘアカットすんよ♪

ってワケで、日頃から美容学校で学んでる事を、披露しちゃうぞって♪

（位置右・近く／有声音／小声）

（霧吹きで髪を濡らす音）

ってかさあ、パパの髪、伸び放題じゃ。

前回のヘアカットから美容院、行ってないん？

うーわ、やっぱり…。

まったくもう…。

パパは杏子が居ないと、直ぐ放ったらかしにするんだから…。

え？

その呼び方？

（不思議そうに） 「パパ」じゃ駄目なん？

(不満そうに) ええ、いいじゃん別に。

「旦那様」って呼ぶの、なんだか抵抗あるんだよね。
だからさ、許してくんない？

にひひっ♪

(位置左・近く／有声音／小声)

ありがと♪

パパはいつも優しいから、好き♪

(位置左・近くから右・近くへ移動しながら／有声音／小声)

あゝでも。

(位置右・近く／有声音／小声)

杏子だけ鼻肩されるのは、ちよっと困るかも。

ほかのメイドが誤解ってか、嫉妬しちゃうから、マズいんだよね。
へ？

杏子の…思い…過じ？

(位置左・近く／有声音／小声)

…マ？

え、じゃあ、パパが優しいのは、デフォなん…？

マジかあゝ…。

(不貞腐れる様に)

じゃあさつき、「好き」って言ったの、ナシで。

そう、撤回する…。

本当はどう思ってるか…？

(ここまで)

(考え込む様に)

あゝ、んんゝゝえゝつとね…。

嫌い…ってワケじゃないし、ん。

(ここまで)

あ、パパのその顔、からかつてる顔じゃんっ！
もうイジワルっ！

そうやってほかのメイドも、からかつてるんでしょ…。
うん、って…はあ…。

パパはもっと、自覚したほうがいいよ？

なにがって…。

ああ、もう知らない…。

ほんと、鈍感なんだから…。

って、話してぱっかりしてたらダメじゃんっ！

ヘアカット、さっさと始めないと。

まったくもう…。

ほらほら、危ないから、動かないでね？

(位置左・近くから正面・中間へ移動しながら／有声音／小声)

まずは側面の髪から…。

(しばらくストロークの長いヘアカット音)

(位置正面・中間／有声音／小声)

ふう…相変わらずパパの髪の毛は硬いね。

うん。

美容学校で何人かの髪を切らせてもらったけどさ、パパの髪は特に。
でも任せて♪

このハサミ、ただのハサミじゃないんだあ♪

これは、一本一本手作りされてて、伝統ある職人のシロモノなんだよねえ。
値段？

ああ、高かったよ。

でもパパがしっかりお給料をくれるから、なんとか分割で♪

杏子にとって、今までで一番高い買い物だったから、一生大事にする♪
長く使うからには、お手入れもしっかりしないとね♪

切れ味が悪くなったら？

ふっふっん♪

それについても心配ないよ？

そのお店に持ち込めば、調整してくれるみたい♪

ね？

一生使えるでしょ？

にひひ♪

こうして理美容の専門学生として成り立ってるのは、パパのおかげ♪
メイドとしても雇ってもらえてて、すごく感謝してる♪
そ。

今日この日、スペシャルリラクゼーションデー。

これはパパにリフレッシュしてもらう日、ってだけじゃないんだ。

メイドたち…。

つまり、杏子たちの気持ちを、家主であるパパに伝える日でもあんの。

メイドたちはみんな、この日のために意気込んでんだから♪

ぜったい、パパを癒すんだってね♪

普段は真面目で、お堅いメイド長の堇（すみれ）さんもそう。

今日ばかりは朝から浮かれちゃってさ。

そういう所を見ると、案外可愛くなって思っちゃっ♪

それに紫織（しおり）さんもっ。

いつもは竹刀をブンブン振ってて勇ましいけど、昨日は手のタコで悩んでた。
うん。

ゴツゴツしてて、パパに嫌がられるんじゃないかってね。

だから杏子はね、こう言ったんだ。

「パパは紫織さんを理解してるから、嫌がったりしないよ」って。

そしたらいつもはクールな紫織さん、表情緩んでたよ♪

普段見せない表情で、可愛かったなあ♪

可愛いと言えば、いつもツンツン茅由梨（ちゆり）ちゃんっ。

この日のために、新しい耳かき棒を用意するんだって意気込んだ♪

（位置右・近く／有声音／小声）

今日、新しいの使ったんでしょ？

どうだった？

（位置正面・中間／有声音／小声）

そっかあ、気持ちよかったんだ♪

数日前から通販サイトと睨めっこしててさ、話しかけても気付かないくらい。

うん、それくらい真剣に、耳かき棒を選んでたなあ。

ああ見えて真面目だし、パパの事、好きなんだよねっ♪

そういうギャップって可愛いよね♪

双子でギャップがない春（はる）ちゃんと咲（さき）ちゃんは、どう？

ふふっ、やっぱり可愛いよね♪

二人も、今日この日は特別って言ってた。

いつもあんなテンションだけど、内心浮かれてるんだよ？

練習も欠かさないし、勉強も疎かにしない。

そうそう、いい子たちだよね♪

それだけじゃない。

「いい音」について、あの二人ならではの試みしてる♪

凄いよねっ。

そういえばさつき、廊下が水浸しだったけど。

もしかして陽縁（ひより）、またやらかしたの？

はあ…しょうがないなあ…。

普段からそそっかしいから、落ち着きなよって言ってるのに…。

(位置左・近く／有声音／小声)

パパもあんまり陽縁を甘やかしちゃ、駄目だかね？

当たり前じゃ…ん。

(位置正面・中間／有声音／小声)

お屋敷の物をあんなに壊しちゃって、見てらんないもん…。

この先ずっとあんな調子じゃ、困るでしょ？

そう。

優し過ぎるのも、いい事ばかりじゃないってワケ。

だからさ、杏子らメイドだけじゃなくて、パパからも言っちゃってよ。

そうそう、心を鬼にしてさ、ちゃんと指導してくんないと。

よし、かなりいい感じにカットできてる♪

そろそろ微調整していくね♪

(短いストロークのヘアカット音)

(弦く様に) う…ん…もう少しここは短めで…。

あ、そうだ。

新しく入って来た子。

そう、菊乃(きくの)ちゃん。

まだ慣れない事もあるだろうけど、どんな感じ？

うん…うんうん…。

へえ…頑張ってるじゃん♪

まあ真面目に見えて、そそっかしいところあるから、油断ならないけどね…。

そうそう、第二の陽縁って雰囲気で、ヒヤヒヤしちゃう…。

でも誰もが通る道だからさ、今は見守ってあげようかなって。

え？

先輩っぽい？

もお。

っぽいじゃなくて、先輩なの。

こうしてお支給も、学業も、両立できるんだって示してんじや〜ん。
でしょ？

菊乃ちゃんからもね？

「わあ、杏子先輩、凄いです〜」って、この前言われたんだから♪
え〜、いいじゃん。

普段褒めてくれるの、パパ以外いないんだもん。

まあそれだけでも杏子は、満足だけどねえ♪

にひひ♪

でも杏子にとっては、菊乃ちゃんが初めての後輩だからさ、嬉しいんだ〜♪
うん、任せてよ〜♪

「先輩」としてしっかり指導しちゃうんだから♪

よ〜っし、ヘアカットはカンペキっ。

じゃあ次は、洗髪していくね〜。

7..洗髪すんよゝ (広い浴室／夕方)

(位置正面・中間／有声音／小声)

ほい、いつものシャンプーとトリートメント♪

(ボトルが擦れる音)

でもさ、杏子がやんだから、一応特別でしょ？

にひひ♪

そうそう、美容学校で学んだテクニックってのがあんだかんねゝ。

よゝし、じゃあ先ずは、軽くシャワーで流して…。

(しばらくシャワーの音)

はい、オッケー。

そしたらシャンプーね♪

(シャンプーを手取る音)

(シャンプーを頭で泡立てる音)

うん、泡立ってきた♪

やっぱいつも使ってたのだと、キシキシしないから安心だねゝ♪
そ。

パパのために、色々調べて試して、選び抜いたのがコレなんだゝ。
香りもいいし、泡立ちもいいからさ、洗ってる杏子も幸せ気分♪
モコモコゝわしゃわしゃゝモコモコゝわしゃわしゃゝってね♪

(位置右・近く／有声音／小声)

あ、パパ。

痒い所はない？

あつたら重点的にやるから♪

そこが痒い？

うん、任せて♪

指の腹で…頭皮をマッサージ…するみたい…。

(ゆっくりリズムカルに)

モコモコゝわしゃわしゃゝモコモコゝわしゃわしゃゝ♪
モコモコゝわしゃわしゃゝモコモコゝわしゃわしゃゝ♪

ゴシゴシゝゴシゴシゝゴシゴシゝゴシゴシゝ♪

ゴシゴシゝゴシゴシゝゴシゴシゝゴシゴシゝ♪

(ここまで)

(位置右・近く／有声音／小声)

どう、杏子のテクニクは？

前回より気持ちいい？

マジっ！

ヤッタ♪

にひひ♪

(位置正面・中間／有声音／小声)

杏子ね、どれくらいの強さでやったらいいかって、毎回考えてるんだ。

その日の頭皮の状態にもよるんだけど、コツはかなり掴めてきた♪

パパの場合はゝこれくらいがベストってね♪

だから気持ちいいんだよ♪

はあい、ほか、痒い所はございませんか？

ない？

じゃあ全体的にまんべんなく、ゴシゴシしていくね♪

(しばらくシャンプーで洗う音)

(位置正面・中間／有声音／小声)

よおし、これくらいかな？

じゃあ、泡を流しちゃうね♪

(つばひしゃわりの音)

次はゝトリートメント♪

これもいつものね♪

(トリートメントを手取る音)

(トリートメントを髪全体に馴染ませる音)

(位置左・近く／有声音／小声)

(かしこまった感じで)

ねえ…パパ…あのさ…。

相談…あんだけど…。

今はさ…メイドと美容学校…両立できてんじゃん？

それは凄くありがたいなって思ってる…。

でも今後…。

そう、将来の話…。

もし美容師になりたいって言ったら…パパはどうする？

「杏子…の意思を…尊重する」…っか…。

杏子？

あ…えつと…。

まだ…決めてない…。

色々…思う所があつて…

もしもの話…。

もしパパが引き留めるなら…メイドとして…このお屋敷に残る…。

ん…ん…。

ん…で…どう？

「残って欲しい」？

そっか…残って欲しいんだ…。

(小さく呟く) よかった…。

(位置正面・中間／有声音／小声)

ああ、ううん、なんでもない…。

(二二二まで)

(残って欲しいと言われた事に浮かれた感じで)

さて、そろそろトリートメント、流そっか♪

(鼻歌) ふんふん〜ふふ〜ん♪

え？

だって嬉しいもん♪

パパが必要としてくれてる♪

杏子はそれだけで幸せ♪

(二二二まで)

って、あんまり話していると、身体、冷やしちゃうでしょ？

だからほら、シャワーで流すよ〜♪

(しばらくシャワーの音)

はあい、おしまい♪

ボサボサだった髪も、いい感じ♪

パパ、益タイケメンになっちゃったね♪

にひひ♪

さてと〜。

次は綿棒耳かきで、菊乃(きくの)ちゃんの番だね〜。

あ、もし髪を整えて欲しかったら、声かけてよね？

うん、いつでもオッケー♪

このお屋敷の主(あるじ)なんだもん。

ボサボサの頭じゃ締まらないでしょ？

そういう事〜。

じゃあ風邪引かない様に、髪はしっかり乾かして？

あ、そうだ。

菊乃ちゃん、凄く緊張してたから、優しくしてあげてよね。

じゃあパパ、杏子は下がるね♪

はあい、どういたしまして♪

(杏子の足音)

(位置右・遠く／有声音／やや小声)

パパ、いつもありがとう♪

にひひ♪

メイド尽くし 菊乃

8..め、綿棒耳かきですッ（施術室／夕方）

（ノックの音）

（位置右・遠く／有声音／ドア越し）

だ、旦那様。

菊乃です。

入ってもよろしいでしょうか？

は、はい…失礼いたします。

（ドアの開閉音）

（菊乃の足音）

（位置正面・中間／有声音／やや小声）

はわわ…ど、どうしましょう…。

ついに私（わたし）の番が、回ってきてしまいました…。

今回が初めてなので…もし失礼があったらと思うと…。

あ、はい。

私の担当は、綿棒耳かきです。

洗髪の後ですから、お耳の中に、水分が残ってはいけません。

で、ですから綿棒で、綺麗にいたします。

あ、そうですね。

早速始めて参りましょう。

は、はい…膝枕、いたしますので、こちらの施術マットへ…。

（聴き手の足音）

（菊乃の膝に寝転がる音）

（位置左・近く／有声音／かなり小声）

はわわ…旦那様が私のひ、膝に…。

誰かを膝枕する、というのは初めてですので、緊張いたします…。

ああ…ええと…。

私のお膝…心地はいかがでしょう？

「凄く…いい」？

良かった…。

安心いたしました。

で、では綿棒耳かき、始めて参ります。

(綿棒をケースから取り出す音)

綿棒をお耳へ入れますので、動かない様、お気を付け下さい。

し、失礼いたします。

(綿棒耳かきの音)

いかが…でしょうか？

痛くはありません？

はい、では続けて参ります。

(しばらく綿棒耳かき音のみ)

(浅い呼吸音／ゆっくり)

すゝふゝ、すゝふゝ、すゝふゝ、すゝふゝ。

すゝふゝ、すゝふゝ、すゝふゝ、すゝふゝ。

すゝふゝ、すゝふゝ、すゝふゝ、すゝふゝ。

すゝふゝ、すゝふゝ、すゝふゝ、すゝふゝ。

すゝふゝ、すゝふゝ、すゝふゝ、すゝふゝ。

(…まで)

ん、いかがなさいましたか？

はい…。

上手？

え、ええと、綿棒耳かきが、でしょうか？

はわ…どうでしょう…。

旦那様に褒められてしまいました…。

ああ…でも…凄く嬉しいです…。

ええ。

初めてこの日を迎えるにあたり、先輩メイド方に、色々教わりましたので、旦那様がどのくらいの強さがお好みか、ですとか。

お耳の中のどの箇所が弱い、ですとか。

流石先輩方…。

よく心得ていらつしやる…。

こうして旦那様に喜んでいただけたのは、先輩メイド方のおかげ…。

このお屋敷での綿棒耳かきは、新人メイドとしての登竜門なんだとか。ですから旦那様に上手、と仰っていただけて、心が軽くなりました。

え？

はあ…もう少し肩の力を抜く…ですか…。

んん…そうは仰いまして、私はまだ新人メイド。

スペシャルリラクゼーションデーも、初めてでございます。

旦那様に失礼があつてはいけませんから、その…緊張の糸がほぐれなくて…。

あ、でもでも…綿棒耳かきは、しっかりと務めさせていただきます。

シャワー後の濡れたお耳は、しっかり水分を取り除かないといけません。

はい、お任せ下さい。

程よい緊張感で、進めて参ります…。

(浅い呼吸音／ゆっくり)

すゝふゝ、すゝふゝ、すゝふゝ、すゝふゝ。

すゝふゝ、すゝふゝ、すゝふゝ、すゝふゝ。

すゝふゝ、すゝふゝ、すゝふゝ、すゝふゝ。

すゝふゝ、すゝふゝ、すゝふゝ、すゝふゝ。

すゝふゝ、すゝふゝ、すゝふゝ、すゝふゝ。

(いじまじ)

んゝ、よし。

こちらのお耳は、綺麗に拭き取れました。

旦那様、次は反対側のお耳を綺麗にいたしますので、寝返りを。

(寝返りを打つ音)

(位置右・近く／有声音／かなり小声)

はい、ではこちらのお耳も、しっかりと水分を拭き取りましょう♪

(綿棒耳かきの音)

いかがでしょう。

痛くはございませんか？

よかったです♪

旦那様の気持ちよさそうな顔…、見ていて私まで幸せになって参りました。そのおかげでしょうか。

少しずつですが、緊張もほぐれてきた様な…気がいたします。

あ、でもでも、油断は禁物でございます。

ええ、お耳を傷付けてしまつてはいけませんから…。

手先の動きは慎重に…慎重に…。

(浅い呼吸音／ゆっくり)

すゝふゝ、すゝふゝ、すゝふゝ、すゝふゝ。

すゝふゝ、すゝふゝ、すゝふゝ、すゝふゝ。

すゝふゝ、すゝふゝ、すゝふゝ、すゝふゝ。

すゝふゝ、すゝふゝ、すゝふゝ、すゝふゝ。

すゝふゝ、すゝふゝ、すゝふゝ、すゝふゝ。

(二つまで)

そう言えば旦那様。

私を雇つて下さったのは大変感謝しているのですが…。

その…私なんかがお仕えして、ご迷惑ではないですか？

だってその…私…いわゆる「ミユ障」なので…。

ええ、人前で直ぐに緊張してしまつて…。

それで緊張のあまり、失敗してしまう事も…。

旦那様はお優しいので許して下さいますが、この先続けられるか不安です…。

はあ…「そのままでもいい」…ですか…。

「個性」？

ええ…ええ…。

「メイドごとに違って面白い」…成程…。

でしたら旦那様にお伺いしたい事がございます。

私、夢があるんです。

それは…堇（すみれ）さんの様な、素敵なおメイドさんになる事…。

凛としていて、所作に無駄のない、理想のお方…私の憧れです。

私も堇さんの様になれるでしょうか？

ええ…ええ…。

はあ…「私らしくあればいい」…。

つまり、堇さんの様にはなれない…という事でしょうか？

綺麗で、カッコよくて、眩しくて、温かくて、まるで太陽の様なお方…。

初めて堇さんにお会いした私は、やはり緊張してしまつて…。

それで、あわあわしていたら、「落ち着いて」と肩を撫でて下さいました。

優しくて、嬉しくて、胸が熱くなつて…。

この方こそ、理想の方だつて思つたんです。

（綿棒耳かき音止まる）

え？

恋？

ええと…私が…堇さんに？

旦那様、冗談はよして下さい。

んん…でも…そう言われてみると…これは…恋…なのかもしれません…。

（独り言の様に） そっか…恋してるんだ…私…そっか…。

あっ、申し訳ございません。

手が止まっておりました。

（綿棒耳かき音再開）

旦那様は…メイドがメイドに恋をする…というのは、どう思われますか？

その親指を立てるハンドサインは…つまりアリ…という事でしょうか？

はあ…そうなのですね…。

（独り言の様に） アリ…ですか…。

でもでも…私なんかにか好かれても、きっと董さんは喜びません…。

ですからこの気持ちは、私と旦那様だけの内に留めておきましょう。

いえ、いいんです。

その方がイケナイ恋って感じで、よくはありませんか？

ええ、二人だけの秘密、お約束です♪

さて、こちらも水分は綺麗に拭えました。

はい、おしまいにいたしましょう♪

お疲れ様でございました。

このあとは、食堂に夕飯をご用意しております。

施術着からお着替えになってお越し下さいませ。

お夕飯後は、董さんによる寝かし付けがございます。

あ、えとえと…旦那様。

董さんに私の気持ち、明かしてしまっではいけませんよ？

お約束、守ってくださいませね？

はい、それを聞いて安心いたしました♪

では、食堂でお待ちしております♪

メイド屋へし
董

9…お休みなさいませ、旦那様（自室／夜／夕飯後）

（ノックの音）

（位置右・遠く／有声音／ドア越し）

旦那様、メイド長の董でございます。

就寝の準備はお済でしょうか？

はい、では失礼いたします。

（ドアの開閉音）

（位置右・遠くから正面・中間へ移動しながら／有声音／やや小声）

旦那様、お夕飯はいかがでしたか？

（位置正面・中間／有声音／やや小声）

左様で…ご満足いただけた様で、なによりでございます。

それでは旦那様、まだお早い時間ではございますが、就寝いたしますしよう。

スペシャルリラクゼーションデーは、いつも通り寝かし付けで。

ええ、今回は私がお勤めいたします。

では早速、私もベッドに…。

失礼いたします。

（布団が擦れる音）

（位置左・近く／有声音／かなり小声）

旦那様、お布団をおかけいたします。

（布団をかける音）

お布団、とても温かいですね♪

まだ夜は肌寒い日が続いております。

お風邪を召されません様、お気を付け下さいませ。

私たちメイドも、旦那様の健康を第一に、願っております。

ええ、そのためのスペシャルリラクゼーションデー、なのですから。

心身共にリフレッシュしていただく日…。

本日のメイドたちによる癒し、いかがでございましたか？

ええ…ええ…。

左様で…。

ではメイドたちにお伝えしておきましょう。

「旦那様は大変感謝しておられた」と。

さて、旦那様。

あまりお話ばかりしては、眠気が覚めてしまいます。

(子供に言い聞かせる様に)

いいえ、いけません。

休日だからと、夜更かしをしまつては、明日(あす)に影響いたします。
ですから目を閉じて、なんにも考えず、お眠りになって下さい？

旦那様がお眠りになるまでが、スペシャルリラクゼーションデー。

しっかりと見守っておりますから、ご安心を。

はい、どうされましたか？

手を？

もう、急に甘えん坊になられて…。

ああ、いえ。

手、つなぎましょうね♪

(手を繋ぐ音)

はい、しっかり握っております。

旦那様がお眠りになるまで…。

いえ、お眠りになったあとも、こうして握っておりますので、ご安心下さい。
それでは旦那様、お休みなさいませ。

(浅い呼吸音) すくふく、すくふく、すくふく、すくふく。

ん、はい、まだなにか？

「なにかお話を」でございますか…。

ふむ…では、神話のお話、とある忍（しのび）のお話、
猫と喫茶店のお話、どれにいたしましたしょう？

ふふっ♪

相変わらず旦那様は、可愛いお話がお好きなのですね♪
では、猫と喫茶店のお話をいたしましょう。

「猫と喫茶店…主要キャラ」

マ…喫茶八雲のマスター（八十五歳・男性）

ス…野良猫のスサノオ（スーさん）（十五歳・オス）

（位置左・近く／有声音／かなり小声／絵本を読む様にゆっくり）

猫と喫茶店。

ここはとある町。

今朝も雀たちが寄り添い、せわしなく挨拶を交わしています。

喫茶八雲（やくも）のマスターもまた、お店の準備に追われていました。
お店から路地に出たマスターに、一匹の猫が声をかけました。

ス「よう、マスター。おはよう。朝から精が出るねえ。」

野良猫のスサノオです。

マ「やあ、スーさん。おはよう。」

マスターも挨拶を返しました。

マスターとスサノオは、気心の知れた仲で、毎朝こうして挨拶を交わします。

ス「マスターももう若くないんだ。」

そんな重そうな物を持って、平気なのかい？」

コーヒー豆の麻袋を担ぐマスターに、スサノオはいつものジャブを出します。

マ「スーさんこそ、もういい歳じゃないか。」

足腰が弱って、高い所へ登るのも楽じゃないだろう？」

マスターも負けていません。

するとスサノオは渋い顔をしてこう言いました。

ス「まあそうだな。若い時はひとつ飛びで登れた堀も、
今じゃよじ登るのが精一杯だ。情けない。」

お互いの老いについて少し話したあと、マスターが話題を変えました。

マ「ところでスーさん。朝ご飯を食べに来たんだろ？」

今用意するから、少し待ってくれるかな。」

そう言うマスターは麻袋を担ぎ直し、店の中へと消えていきました。
少し経ち、マスターがトレイを持って帰ってきました。

マ「ほら、スーさん。いつもの安いエサで悪いが、我慢してくれ。」
申し訳なさそうな顔のマスターに、スサノオはこう返しました。

ス「エサにあり付けるだけでも幸せってもんだ。いつもすまんね。」
そう言うスサノオは、ムシャムシャと、元気にエサを食べ始めました。
マスターはニコつと笑い、スサノオの頭を撫でました。

喫茶八雲は飲食店ですから、スサノオを店に入れる事は出来ません。
店の外でエサを食べる。

喫茶八雲のいつもの光景でした。

しばらくするとマスターは立ち上がり、スサノオにこう言いました。

マ「じゃあスーさん、私は店の準備があるから行くよ。」

腰をグイッと伸ばしているマスターに、スサノオは軽く会釈しました。
それを見たマスターはまたニコつと笑い、店の中へと消えていきました。
スサノオはエサを食べ終わると、ペロペロと口の周りを掃除しました。
水もたっぷり飲んで、お腹は一杯です。

スサノオは陽の当たる場所へ移動すると、ゴロンと寝転がりました。

日課の毛繕いの時間です。

ゆっくり時間をかけ、全身の毛並みを整えました。

毛繕いを終える頃、聞き慣れたドアベルの音が鳴りました。

カラカラ。

喫茶八雲の開店時間です。

この日も朝から、常連たちで賑わっているのが、壁越しにでも分かりました。昨日の野球結果を語る、どこかのお父さん。

孫の成長を嬉しそうに話し合う、おば様たち。

今朝の新聞を、いつもの席でめくるお爺さん。

今日も喫茶八雲は盛況です。

スサノオはそんな会話や物音に、時々ピクリと耳を動かして反応しました。何気ない朝。いつもの朝。

これが喫茶八雲の朝。

チュンチュン、チュンチュン、雀の挨拶。

ムシャムシャ、ムシャムシャ、いつものエサ。

ペロペロ、ペロペロ、毛繕い。

カラカラ、カラカラ、ベルの音。

ガヤガヤ、ガヤガヤ、賑わう店。

喫茶八雲はお昼過ぎになると、いつも落ち着きます。

この日も午後二時には、お客さんもまばらになりました。

すると店内からマスターが現れ、スサノオをツンツンと突きました。

ポカポカ陽気に当てられ、スサノオはいつの間にか眠っていた様です。

寝起きのスサノオにマスターはニコっと笑い、言いました。

マ「スーさん、随分とグッスリ眠っていたね。もう昼過ぎだよ。」

スサノオは襟を正して返しました。

ス「いやあ、店先ですまない。邪魔だったかな。」

マスターは首を横に振って言いました。

マ「邪魔だなんて思っていないよ。スーさんはウチのマスコットなんだ。

常連さんにも聞かれるんだ。スーさんは元気？ってね。」

スサノオは少し驚きました。

ス「へえ、オレみたいな野良猫がマスコットね。」

照れくさそうなスサノオに、マスターが追い打ちをかけます。

マ「スーさんが居てくれるお陰で、ウチも繁盛しているんだ。

まさに招き猫だ。」

スサノオは恥ずかしさの余り、顔を手で覆い隠してしまいました。

ス「おいおいマスター、もうよせって。

こんな老いばれでボロ猫のどこがいいんだか。」

マスターは意地悪な顔で笑うと、急に真剣な表情をして言いました。

マ「なあ、スーさん。私は近い内にこの店を畳むよ。」

スサノオはギョツとして問いかけました。

ス「随分と急じゃないか。どこか悪いのかい？」

するといつも優しい顔に戻ったマスターが、慌てて返しました。

マ「いやいや、そう言う訳じゃない。だが私ももう八十五だ。

コーヒー豆の袋を運ぶのも精一杯だね。そろそろ限界だよ。」

確かにその歳ともなればガタがくる。

そう考えたスサノオは妙に納得しました。

そしてふと気になった事を尋ねました。

ス「マスター。さっき店を畳むと言ったな？

ってことは店を継ぐヤツが居ないって事かい？」

マスターは寂し気な顔で、コクリと頷き、意外な事を口にしました。

マ「なあ、スーさん。ウチの家族にならないか？」

スサノオは今の言葉を理解できず、反芻しました。

しばらくしてハツとなり、聞き返しました。

ス「随分と唐突だな。オレがマスターの家族に？ なんの冗談だい？」

マスターは再び真剣な顔になり、話を続けました。

マ「本気さ。」

ウチが飲食店だったから、猫は保護できなかった。
だからね、ずっと後ろめたさを感じていたんだ。
だが店を畳むとなれば、話は別だ。

スーさん。お前さんと堂々と迎えられる。

なあ、どうだ。私の家族になる気はないかな？」

嬉しい様な、恥ずかしい様な複雑な感情が、スサノオの心をかき乱しました。
少しの間考えていたスサノオは、マスターに尋ねました。

ス「なあマスター、オレなんかを家族に迎えたって、

老い先長くはないんだ。後悔するかもしれない。」

マスターはそれを聞いて吹き出しました。

マ「あっはっは。それは私も同じさ。いつポックリ行くかも分からんよ。」
スサノオはそれを聞いて吹き出しました。

ス「あっはっは。違いねえ。だったらよお、よろしく頼むわ。」

そう言うときスサノオは手を差し出しました。

マスターも手を差し出しました。

ハイタッチならぬニヤンタッチを交わし、家族の契りを誓いました。

マスターはふう…と息を吐くと、ニコッと笑って言いました。

マ「なあ、スーさん。そろそろお腹が空いてるんじゃないか？」
するとスサノオもニコッと笑い、言いました。

ス「流石、分かってるね。」

腰をグイッと伸ばしているマスターの足に、スサノオは頭を擦り付けました。
マスターは待っている様にと合図をして、店の中へと消えていきました。
少し経ち、マスターがトレイを持って帰ってきました。

マ「ほら、スーさん。今夜はいいエサを用意していたんだ。お食べ。」
自慢気な顔のマスターに、スサノオはこう返しました。

ス「こいつぁ美味そうだ。早速頂くとしよう。」

そう言うスサノオは、ムシャムシャと、元気にエサを食べ始めました。マスターはニコつと笑い、スサノオの頭を撫でました。

そして持って来たウィスキーをグラスに注ぎ、ちびりと一口飲みました。それを見たスサノオは、悪戯っぽく尋ねました。

ス「おいおいマスター、まだ店終いもしてないのに、いいのかい？」

それを聞いたマスターは、悪戯っぽく言いました。

マ「構うもんか。今日はめでたい日だ。特別だよ。

ほら、スーさんもエサ、食べなよ。」

スサノオは満面の笑みで高そうなエサを頬張りました。

マスターはエサのトレイにコツンとグラスを当てて、言いました。

マ「乾杯。ようこそ我が家へ。」

スサノオは照れながらも返しました。

ス「店はまだ畳んでないだろ。気が早くないかい？」

マスターは「そうだった」という顔をして苦笑いしました。

しかしその目には、キラリと光るものが見えた気がしました。

スサノオはゴロゴロと喉を鳴らし、喜びました。

マスターはカラカラとグラスを揺らし、微笑みました。

夕日はキラキラと二人を照らし、祝福しました。

ここはとある町。

こちらでも、あちらでも、町の明かりが灯り始めました。

ちょうどその頃、喫茶八雲の明かりが消えました。

今日も閉店時間を迎えたのです。

店先の路地に、スサノオとマスターの姿がありました。

スサノオは嬉しそうに、マスターの足下を行ったり来たりしています。

二人はとても幸せでした。

これまでもずっと。

これからもずっと。

おしまい。